



# SAF Newsletter vol. 2

SAF 日本事務局 〒163-1304 東京都新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー4F TEL:03-5321-6222 <http://www.studyabroadfoundation.org/japan>



## 特集：留学に向けて、英語を極める。今こそギアチェンジの時。

### 英語は多様化している！

英語圏といっても、国や地域によって発音や表現方法が異なることがあります。世界各地で、またさまざまな場面で英語が共通言語として使用されている現在では、いわゆる「英語圏」と呼ばれる英語を公用語とする国や地域だけではなく、第二外国語として英語を話す人も増えており、その多様性は拡大しています。英語は「コミュニケーション」のためのツールです。しかし、留学を目指す皆さんには、次のようなことが気になるのかもしれません。

**Q** 留学先によって、英語の訛りがあるんですか？留学先によって訛った英語が身に付きますか？

**A:** 何をもって「訛り」というのかも意見が分かれるところですが、1 学期間から 1 年の短期間では、現地の完璧なイントネーションを身につけることは難しいと言われています。留学中、ネイティブの人や他国の留学生とのコミュニケーションで困ることがあるかもしれませんが、それを楽しむくらいの気持ちで留学したいものですね。

自分の希望留学先ではどのような英語が話されているのか、インターネットでチェックしてみましょう。リスニングの練習にもなります！

#### 各国のラジオ Let's 英語の聞き分け

- ◇ BBC(イギリス)  
<http://www.bbc.co.uk/radio/>
- ◇ VOA(アメリカ)  
<http://www.voanews.com/english/portal.cfm>
- ◇ CNN(アメリカ)  
<http://www.cnnradio.com/cgi-bin/cnnradio.cgi>
- ◇ ABC(オーストラリア)  
<http://www.radioaustralia.net.au/>
- ◇ CBC(カナダ)  
<http://www.cbc.ca/radio/>
- ◇ RTE(アイルランド)  
<http://www.rte.ie/radio/index.html>
- ◇ Radio New Zealand (ニュージーランド)  
<http://www.radionz.co.nz/>

※Podcasting でも配信されています。

### TOEFLに本気モード！

TOEFLを勉強しなくては！と一念発起したものの、本気モードになれなかったり、スコアUPが計れなかったり。でも、実際留学を目指すにはTOEFLは避けては通れないもの。TOEFLとは、留学生が学部の授業を問題なく履修することができるかを判断する英語のテストで、その点数の基準は大学が独自に設定しています。その基準は、同じ英語圏とはいえ国や大学によってもまちまちです。では、どれくらい違うのでしょうか？

#### 👑 国別！入学に最低限必要な TOEFL のスコア 👑

国	USA	Canada	UK	Ireland	Australia	New Zealand
TOEFL	61		71	80	79	77
iBT	100	88	100	100	92	80

しかし、日本の大学生の平均 TOEFL スコアは iBT で 45~50 とも言われているのが現状です。受験者全体と比較しても、日本人は世界平均的に見ても大変低い結果になっています。(2007 年 ETS ホームページより)

#### 👑 アジア主要国！TOEFL 受験者平均スコア 👑

国	TOEFL iBT 平均	国	TOEFL iBT 平均
日本	65	シンガポール	100
中国	78	フィリピン	100
韓国	77	タイ	72
台湾	72	インド	84
香港	80	マレーシア	87

([http://www.ets.org/Media/Research/pdf/71943\\_web.pdf](http://www.ets.org/Media/Research/pdf/71943_web.pdf))

受験者数はこのレポートで報告されていませんが、日本が主要アジア国の中でも最下位をマークしているのは事実。今後、さらにグローバル化していく世界情勢を考慮に入れても、国際的な舞台で生きていくためにも日本人の英語力UPは必須ですね。

では、どのように勉強したらいいの？というのが学生の本音。そこで、SAFでは、単なる勉強ではなく“攻略”が必要となるTOEFLのスコアUPのためのアカデミックアドバイスをしています。まずはTOEFL未受験の人、TOEFLの無料模擬試験から始めましょう。SAF日本事務局では、毎月1~2回ペースで模擬試験をしています。あなたの実力をチェックしてみましょう。詳しい日程はSAF日本事務局HPでどうぞ。

<http://www.studyabroadfoundation.org/japan>

★★ SAF 留学生レポート ★★

**Q: 現地で勉強を通して、何を感じましたか？**

A: 小、中、高と野球をし、野球をするためだけに学校に通っていた自分にとっては、「学校が楽しい」イコール「友達に会えて、野球ができるから楽しい」となっていました。少なくとも、アメリカに行く前は、大学も含め、学校の授業には何一つ興味を示しませんでした。ユタでの生活は7割が勉強を占めていたにも関わらず、授業や勉強そのものが楽しく、それが初めて「学校が楽しい」につながりました。その理由として、学校に行き授業を理解することのみならず、何から何まで全てがチャレンジなので、毎回「わかってやる」という気持ちになれ、意識の高さを高いまま保って授業に臨めました。現に、小、中、高、大と今まで学校に行ってきた中で、ユタでの一年間が自分のために一番勉強しました。

また、クラスメイトも、日本の学生と本当に意識が違い、たくさんの面で刺激されました。日本の大学生に感じられない、「自分が学びたいことを学ぶために学校に行っている」という意気込みが向こうの学生にはありました。それは、実際に話して聞いたわけではなく、態度で表れていました。

**Q: 留学をして自分が変わったと思えることは何ですか？**

A: 自分に自信がついたことです。もう少し、詳しく言うと、「自信」とは「自分を信じること」と言うことに気がついたことです。もし、日本人が「自信がある」と言ったら、その人は自分の実力、状況、立場など全てを考慮し初めてその言葉を発することになります。例えば、「TOEFLで80点取れたから英検準一級は自信ある」などと言うことです。私も留学前はそうに思っていました。大学受験の時は、自分の偏差値から志望校を決め、ちょっと背伸びをして自分のレベルより高い学校も受けましたが、第一志望は落ちてしまいました。実際、その第一志望の大学には受かる自信はありませんでした。しかし、TOEFLを勉強している間や実際に留学をしている間に「これは自分のしたいことや夢に制限をかけていることと一緒にではないか？」と思うようになりました。根拠なしに、「自分は留学できる」また「授業についてく」と信じました。夢や目標は、自分に「ふさわしい」夢や目標ではなく、シンプルに自分の夢や目標なのです。根拠や理由なんて要りませ



ん。自分のしたいこと、になりたいものが夢なのです。TOEFL28点でスタートした自分が半年後に67点取り留学を決め、帰国後TOEIC900点、英検一級をとり、自分自身がこの考えの証明となれるようこれからも精一杯頑張ります。

**Q: 現地の授業履修を通して感じたこと・成長したことは何ですか？**

A: 自分の意見を言いにくい状況で、自分が自信を持つことによって、しっかり自分の意見を言えるようになりました。高校の時、都市でも有名な高校で野球をしていましたが、自分はレギュラーではありませんでした。その中で私は自分の意見をしっかりチームメイト、特に、キャプテンや自分より技術が優れている人に対して伝えることができずしてました。それは自分の技術がその人たちより劣っていたので、説得力がないと思っているからでした。

留学中にも同じような場面に出くわしました。クラスの中で、特に最初の学期に、みんなたくさん意見を言う中、自分は、100%みんなが言っていることが理解できず、「場違いのことを言うのでは・・・？」と、クラスの中で意見を言うことを初めは恐れていました。しかし、それでは高校の頃と一緒にあることに気づき、自分を変えなきゃいけないと思いました。その時の状況で、急にNativeと同じ英語力になることは無理であっても、少なくとも、間違えても、場違いでもいいから自分の思ったことは伝えようと思うようになり、実際、そう思うようになってから、授業で意見を言う量は急激に増えました。この変化が自分の将来に大きく影響すると思います。

**Q: 留学中、一番苦労したことは何ですか？**

A: 1人1人の意見に全員がコメントしなければならぬ教育学の授業では、相手の発言を完璧に理解して話さなければいけなかったのが、苦労しました。しかし、基本的に英語が出来ないことは、勉強して挽回するしかないとなっていたので、いちいち凹んだりはしませんでした。とにかく、英語を伸ばすために、できるだけ日本人と話さないよう、できるだけアメリカ人と話すようには意識していました。苦労をプラスに考えれば苦しくなくなるので、あまり苦労を苦労だと思った経験はありませんでした。将来は、留学の経験全てを生かして英語教師になることが、今の私の夢です。



留学によってできた「自分の中の太い幹」。  
それが今の自分に自信を持たせていると思う。  
「自信」とは「自分を信じること」それに気がつくことができた。

University of Utah でこんな授業を履修しました！

【Fall 2007】

- ・Beginning American Sign Language I (アメリカ手話入門)
- ・Introduction To Ethnic Studies (民族学入門)
- ・Introduction to Teaching (教授法入門)
- ・Children's Literature (児童文学)

【Spring 2008】

- ・Introduction to Multicultural Education Diversity (多文化教育入門)
- ・Exploration of Diversity (多様性探究)
- ・Exploration of Linguistics and Educations (言語学と教育)
- ・Psychology of Gender Diversity (ジェンダー心理学)

澤内 翔太くん★駒澤大学 文学部英米文学科 3年生

(2年次後期～3年次前期留学)

留学先: University of Utah

留学前 TOEFL スコア: 67

期間: 2007年8月～2008年6月(10か月間) / 1year Academic Program